

2017年3月26日(日)朝10:10  
3月第4共同主日礼拝式説教

主の復活前第4、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：第7の封印について、 竜礼拝との戦い

聖書:ヨハネの黙示録 13章1～10節

＜口語訳＞

新約聖書398～399頁

ヨハネの黙示録 13章1～10節

＜新共同訳＞

新約聖書466～467頁

ヨハネの黙示録 13章1～10節

＜新改訳第3版＞

新約聖書490頁

ヨハネの黙示録13章1～10節

＜塚本訳＞

新約聖書803～804頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネが巻物を食べこと、11章は、2人の証人の奉仕と殉教、主の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報い、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦いの箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める獣との戦いです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第13章1～10節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録13章1～6節；ヨハネは、竜礼拝を求めるローマ帝国の皇帝を連想させる獣の政治力との戦いを啓示されました。

◇1～10節；塚本訳◆サタンの代理なる第一の獣

- 「1 また私は十の角と七つの頭とを有った（一匹の）獣が海から上って来るのを見た。その角には十の冠が被されて居り、またその頭には（神を）洗す名が記されてあった。
- 2 私が見たその獣は豹に似ていた。またその足は熊の足のよう、その口は獅子の口のようにであった。そして（曩（さき）に天から落とされた）竜が、自分の（有っている）権能と、自分の王座と、大なる権力とをそれと与えた。
- 3 またその一つの頭は（剣で）打たれて死んだようであったけれども、（不思議にも）その致命の傷が癒されたのを私は見た。すると全地の人々は獣の（癒された）ことを（見て）

驚き、

- 4 竜を拝んだ。彼が獣にその権力を与えた（ためにこんな不思議が行われたと思うた）からである。そして獣を（も）拝んで言うた、「誰がこの獣のように偉いか。誰が彼と戦うことが出来るか。」
  - 5 するとその獣に、大言（壮語）し、（神に向かって）流言（けがしごと）をいう口が与えられ、また四十二か月の間それを実行する権力が与えられた。
  - 6 そこで彼は口を開き、神に向かって流言をいうた——その御名と、（天にある）その天幕、（すなわち）天に住む人々とを流した」と、ヨハネは再度、龍（悪魔・サタン）から権力を与えられた**第一の獣**が神に向かって流言（けがしごと）をいうのを啓示されました。
- ◇ 1～6節；ヨハネは、「十の角と七つの頭とを有った（一匹の）獣が海から上って来るのを見た。その角には十の冠が被されて居り、またその頭には（神を）流す名が記されてあった」、「その獣は豹に似ていた。またその足は熊の足のよう、その口は獅子の口のよう

であった。そして(曩(さき)に天から落とされた)竜が、自分の(有っている)権能と、自分の王座と、大なる権力とをそれに与え、「その一つの頭は(剣で)打たれて死んだようであったけれども、(不思議にも)その致命の傷が癒されたのを私は見た。すると全地の人々は獣の(癒された)ことを(見て)驚き」、「竜を拝んだ」、「獣を(も)拝んで言うた、「誰がこの獣のように偉いか。誰が彼と戦うことが出来るか」、「大言(壮語)し、(神に向かって)流言(けがしごと)をいう口が与えられ、また四十二か月の間それを実行する権力が与えられ」、「彼は口を開き、神に向かって流言をいうた——その御名と、(天にある)その 天幕、(すなわち)天に住む人々とを流した」幻を見ました。

⇒「**第一の獣**」は、「**十の角**」を持っていたが、これは、当時のローマ帝国皇帝をイメージさせた幻で、「初代皇帝カイザル」後の皇帝、特にキリスト者たちを政治的に苦しめた者たちを示していて、「**七つの頭**」は、僅か1年の間に3人の皇帝をイメージさせるものです。

- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」と違う特徴は、「**角には十の冠が被されて居り**」と、「**龍(悪魔・サタン)**」が7つの頭の冠を持つのに対し、「**第一の獣**」は、各10の角に1つずつの冠を持っていたことです。それほど、「**第一の獣**」は、残虐さが際立っているということで、「**豹に似ている**」ことは、狡猾さ、「**熊の足**」は獰猛(どうもう)さや破壊力、「**獅子の口**」は、脅威を示しているようです。「**竜礼拝**」を強要します。
- ⇒しかも、「**第一の獣**」の口からは、「**大言(壮語)**」、「**(神に向かって)流言(けがしごと)**」、「**天に住む人々とを流し**」が、出て来ました。ヨハネには、耐え難い屈辱のことばでした。
- ⇒ヨハネには、**神の教会**への政治的迫害が厳しく迫ってくる時代を啓示するものでした。
- ⇒日本に「おいても既に、戦国時代からつづくキリシタン弾圧、太平洋戦争時代の牧師や宣教師たちと投獄などが繰り返されて来ました。また、形を変えた道徳教育開始！
- ⇒これからも来る政治的迫害に対して、**神**は何を求めておられるのかを知る必要があります。
- ⇒それは、**神への信賴、神礼拝**のみです。

◆ 黙示録13章7～10節 ;ヨハネは、**第一獣**はキリスト者・教会の人々、特に**牧師、宣教師**を殉教に追いやることは出来ますが、決して**勝利**はできないことを**啓示**され、**神信仰**と**忍耐**を求められていることに気づかされました。

◇ 1～10節 ;塚本訳◆ **サタンの代理なる第一の獣**

「7 また彼は聖徒達と戦争をしてこれに勝つことを許され、且つ凡ての種族と民と国語と国とを支配する権が与えられた。

8 かくて凡て地に住む者、宇宙開闢(かいびやく)の時からその名を屠られた仔羊の生命の書に記されていなかった者は、彼を拜むであろう。

9 (聞く)耳あらば(私の言を)聴け——

10 牢屋に行かねばならぬならば(素直に)牢屋に行け。剣で他人を殺すならば、自分が剣で殺されねばならぬであろう。ここに聖徒の忍耐と信仰がある！」と、ヨハネは、龍(サタン)から権力を与えられた**第一の獣**の**迫害**に対し、**神信仰**と**忍耐**を求めます。

◇7～10節;ヨハネは、「**第一の獣**」に、「**聖徒達と戦争をしてこれに勝つことを許され、且つ凡ての種族と民と国語と国とを支配する権が与えられ**」、「**凡て地に住む者、宇宙開闢(かいびやく)の時からその名を屠られた仔羊の生命の書に記されていなかった者は、彼を拝む**」ことを示され、「(聞く)耳あらば(私の言を)聴け」、「**牢屋に行かねばならぬならば(素直に)牢屋に行け。剣で他人を殺すならば、自分が剣で殺されねばならぬであろう**」、「**聖徒の忍耐と信仰がある!**」と、叫びに近いメッセージを語っています。

⇒ヨハネは、殉教さえ起こる厳しい**第一の獣**との戦い、特に**龍(悪魔・サタン)** 礼拝を強要される時代を思い、「**牢屋に行かねばならぬならば(素直に)牢屋に行け**」と命令調で語り、「**剣で他人を殺すならば、自分が剣で殺されねばならぬ**」と、キリスト者が、「**剣**」を取ることを暗に誡めています。

⇒**EY師**は、絶望的気持ちになった戦争経験者として、**祈りに集中したキリスト者の生活確立を教会の使命**として来られました。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネが巻物を食べこと、11章は、2人の証人の奉仕と殉教、主の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報い、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦いの箇所です。

- ◇ヨハネの黙示録13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める獣との戦いです。
- ⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。
- ⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。
- ⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。
- ⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」ののですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、部下の「**第一の獣**」を呼び出し、**神礼拝者のいのち**を狙います。

⇒**龍(悪魔・サタン)**の働く期間も、1260日、3年半と制限されていましたが、**第一の獣**の働きも、42か月・3年半と制限されています。

**龍(悪魔・サタン)**が、支配するこの世は、荒野ですから、**神の聖徒**には、苦難を回避できないため、「**忍耐と神信仰**」(13:10)が求められたと同様、**第一の獣の政治的迫害**に対しても、「**神信仰と忍耐**」がもとめられます。

⇒**UT師**は、**EY師**との出会いと働きについてのインタビューに答えて、祈りのことを語っておられ、「朝20分早く起き、最初の5分聖書を読み、次の5分で自分のために祈り、次の5分で他の人のために祈り、最後の5分で聖書を読んだ感想を書くようにEY師は奨励していた旨」を伝えておられます。

⇒殉教や迫害は、より厳しい「**忍耐**」かも知れませんが、「**毎朝の20分の祈り**」も、**神信仰・神礼拝の喜び**に与るための「**忍耐**」です。

⇒「**忍耐**」は、「下にとどまる」意味ですから、時代や状況に関らず、「**神の恵み**」の下にとどまり、「**龍(悪魔・サタン)**」礼拝を回避することです。

### エペソ2:1～3

- 1 この故に君達異教人のためにキリスト・イエスの囚人となっている私パウロは…
- 2 君達への(使徒たるべき)恩恵の職が神から私に与えられたこと、
- 3 すなわち黙示によって(大いなる救いの)奥義が私に示されたことを君達は聞いたに違いない。前に手短かに書いた通りである。

### エペソ6:10～17

- 10 最後に(言う、)主にあつて、またその逞しい威力によって強くなれ。
- 11 悪魔の奸策に対抗し得るよう、神の武具を著けよ。
- 12 私達の戦いは(この世の)血肉に対するものでなく、「権威」に対するもの、「権力」に対するもの、この暗の世界の主権者(なる悪魔)に対するもの、天上における悪霊(の軍勢)に対するものであるからである。
- 13 この故に神の武具を執れ。(悪魔が勢力を壇にする)悪い日において彼に抵抗し、凡てを征服してその立場を守り得るためである。

- 14 だから『腰に真理の帯をしめ、義の鎧を著け、
- 15 平和の福音の用意を』(靴として)『足に』  
穿いて立て。
- 16 その上になお信仰の盾を執れ。これで悪者  
の(投ぐる)凡ての火箭を消すことが出来よう。
- 17 また『救いの兜』と、『神の言』なる『御霊の  
剣』を取れ。